



【参考文献】

- 「広島市の生物」 発行 広島市環境局環境企画課
- 「五日市町統計台帳」 発行 五日市市
- 「広島市統計書」 発行 広島市
- 「遊び図鑑」 発行 福音堂書店
- 「ゲンジボタル」 発行 岩崎書店
- 「アカトンボ」 発行 信成社

- 【編集】 やはたがわまっぷくらぶ 自然環境グループ
- 【発行】 広島市佐伯区役所
- 【協力】 広島市五日市公民館

R70

広島県治水70周年を記念して発行



このガイドブックは、2001年3月発行の  
**「八幡川ウォーキングマップ」**と合わせてご利用ください。  
 八幡川には、まだ多くの自然が残っています。是非自分の感性で自然  
 の変化を見つめてください。

【広島市佐伯区】

## この本の使い方

八幡川  
おもしろい  
ふっく  
W.A.C

八幡川とその周辺の環境について、広く皆さんに興味を持って、楽しんでもらうために、私達「やはたがわまっぷくらぶ」の自然環境グループは「八幡川おもしろいふっく」、「八幡川水生生物ガイドブック」、「八幡川植物ガイドブック」、「八幡川野鳥ガイドブック」を作りました。

このうち「八幡川おもしろいふっく」では、八幡川そのものの姿、そこに見られる動植物の生きている様子、あるいはこれらと人間とのかかわりなどを紹介しています。

生き物の名前を知ったり、覚えたりすることも大切かもしれませんが、もっと大切なことは、「なぜそこにいるの?」「どのようにして生きているの?」という疑問を抱き、その心を持ち続けることです。

大人も子どももこのハンドブックを手に八幡川の自然に触れてください。必要な時は、大人の皆さんがここに書いてあることを子どもたちに説明してあげてください。特に子どもたちは、自然に直接触れることを五感で感じ、感動し、さまざまな疑問を素直にぶつけてきます。そんな時、このハンドブックが子どもたちの興味を引き出す効果を発揮するものと思われたい。

“?”を付けたメモ欄を作っていますので、自分で思ったこと、感じたことを自由に書いてみてください。

このハンドブックが八幡川に関心を持ち、理解し、少しでも良い環境を保つて将来に引き継ぐための一助になることを願っています。

### 目次

- この本の使い方 ..... P. 1
- 八幡川の概要 ..... P. 3
- 健康への道は八幡川ウォーキングから ..... P. 7
- 八幡川の河床の様子を見てみましょう ..... P.11
- 農耕文化が育てた生きものたち ..... P.15
- 人の手を介して移動した生きものたち ..... P.21
- ちょっとおもしろい生きもの世界 ..... P.25
- 子どもから大人まで楽しめる遊びは? ..... P.27
- 八幡川の環境を回復させるために! ..... P.29
- 八幡川の環境は子どもたちの大切な宝物 ..... P.30



### 八幡川の環境ってどんなの?

「八幡川の環境」について、皆さんはどんなイメージをお持ちですか? 八幡川の環境は、歴史的な背景、農業の近代化や都市化による汚水流入、山林や農地などの生物の生息する区域の減少、河川改修や自然災害などさまざまな影響を受けています。加えて近年、酸性雨などの地球規模の影響を受けるようになってきました。都市化する以前の八幡川には、人が多くかかわっていたことが、五日市町誌などからもうかがえます。それは、魚とりであったり、農業用水の取水であったり、土手の草刈りなどであったり、と極めて多彩で深いものでした。このようにして八幡川の環境は、ある時期まで守られてきたのでしょう。

今こそ、人が八幡川とのかかわりを見つめ直し、少しずつ八幡川の環境を回復する努力をする時期なのではないでしょうか。

# 八幡川の概要



八幡川は、源流を佐伯郡湯来町の赤土地に発し、魚切ダムを経て石内川と合流し、瀬戸内海に注ぐ二級河川です。

流域は、佐伯区のほか湯来町の南部、廿日市市の北部、西区の一部です。三和橋から上流では里山、棚田も見ることができます。下流域は、住宅を中心とした市街地を形成し、主要道路交通網や鉄道が東西に走っています。また、流域は温暖で年間降水量は1,500mm程度です。

河川延長（河川法に基づく二級河川区間）は20.1kmで、流域面積（雨水が水路、沢、谷などを経て川に集まる区域）は83.0km<sup>2</sup>です。

## 佐伯区【旧五日市町時代から】の土地利用の変化

高度経済成長による都市化や宅地化によって農地や山林が急激に減少し始めるころの昭和35年（1960年）と平成12年（2000年）の土地利用状況を調べてみました。

広島市のベッドタウンとして大型団地が造成され、この40年間で宅地は約5倍に増えました。その反面、生物の生息空間である山林は大幅に減少し、田畑は約3分の1に減ってしまいました。

この田畑や山林原野の減少は、人のかかわりによって生息してきた動物や植物によって大きな痛手になったに違いありません。



3

## 里山の緑の変化

1900年頃	宅地が少なく、八幡川に沿って水田が広がっていました。村落には鎮守の社、水田には畦畔木が点在していました。
1920年頃	草場が針葉樹林になっていきました。
1950年頃	水田の間に宅地が広がり始めました。（土地利用の大きな変化です。）
1960年頃	松林を主とする里山は放棄され始めました。（弥生時代からの里山依存型の農業が終わりました。）このことにより、松林は荒れ、マツタケはほとんど生えなくなりました。ハナゴケなどの地衣類なども減少しました。
1970年頃	武田山～鈴ヶ峰周辺では、山林が宅地またはゴルフ場になりました。マツが枯れ始め、林床のキキョウ、オミナエシなどが姿を消し始めました。山地はマツに変わり雑木広葉樹が増え始めました。
1980年頃	山地部では大規模な開発が続きました。農地転用の規制により水田の宅地化が進まず、そのため山地部の開発が促されました。低木のツツジも少なくなってきました。
1990年頃	山地部の開発はますます進み、武田山～鈴ヶ峰の分断が進みました。

※1 畦畔木 … 畦に多目的利用の木を植えていました。何のためでしょう？

?

メモ

## 農業・生活の変化

1960年代以降、大きな変化が見られ始めました。

### 1. エネルギー革命で生活は大きく変わりました！



4

## 運搬



## 肥料



## 耕運

のうはんきょうが  
農繁休暇

“農繁休み”とも呼ばれ、主に6月の田植えの時期と、10月の稲刈りの時期に、1週間程度学校を休みにして、農家の子どもたちが家の仕事（農業）の手伝いができるようにしていました。

## 2.水田や水路の様子が変わりました

田んぼや水路の様子は変わり、水路に生息していたメダカ、フナ、ゲンゴロウなどは生活の場を失い、カエルの産卵場も減少していきました。



米が不足していたため、米を作ることに一生懸命で、いつも水張りをしていました。そうすれば米の収穫が多くなると思い込んでいたのかもしれないね？

水はけが良くなり、米の収穫が増えました。

## ゆっくりとした水の流れ



## 雑石・玉石水路



## 土水路

## 速くて単調な水の流れ



## コンクリート水路

## 3.水田の生物は減少しました

水田の草取りは、手作業によっていましたが、除草剤の普及により、植物や動物は大きな影響を受け減少しました。絶滅したり、絶滅寸前の種もあります。昭和30年頃（1955年頃）には、毒性の強い農薬が使われていたため、フナやカエルなどの死骸を見ることもしばしばでした。カエルの減少によりヘビも減少し、タカなどの減少も招きました。このように、個体数の減少や種の絶滅は、他の多くの種に波及するのです。